

「いわて若者カフェ」の運営について

現状と課題

現 状

平成29年7月に「いわて若者カフェ」を県公会堂の地下にオープン

- ◆ 若者の交流スペースの提供(県公会堂地下)
- ◆ カフェマスター(7人)による各地域での活動支援
- ◆ カフェマスターを講師とした交流イベントを各地で開催
- ◆ R4から県内4か所を連携拠点として位置づけ



若者カフェ

【若者カフェ来館者数】

R2年度	R3年度	R4年度
939	1,295	812

課 題

- ◆ 盛岡を中心とした運営のため、地域のニーズに十分にできていない
- ◆ 点での活動が中心で、面的な活動支援になっておらず、カフェマスター間の連携が不十分
- ◆ 連携拠点は運営費を持たないため、活動が形骸化
- ◆ 補助金による支援と、カフェマスターによるサポートが連動していない
- ◆ 市町村や、NPO法人や地域おこし協力隊等との実践的連携が希薄
- ◆ 成果の検証・把握が不十分

今後の基本方針

市町村や各地域のNPO団体や地域おこし協力隊等との連携により、若者カフェの活動を全県に広げ、継続性と社会的貢献の向上に資する仕組みを構築する。

R6年度からの見直し内容

ポイント①

連携拠点の機能強化

- ・ 県北・県南・沿岸の4か所に連携拠点を配置
- ・ 地域ニーズに応じたイベント等を拠点毎に企画し開催
- ・ カフェマスターが各地の若者からの相談に対応し、助言等によるサポートを実施



R6から各拠点に対し活動運営費を予算措置

ポイント②

関係団体等との連携強化

- ・ 各地域で活動するNPO団体や地域おこし協力隊等と連携した活動を拡充
- ・ 「盛岡という星で」等の各市町村の取組との連携強化
- ・ カフェマスター間の連携強化

R5は「スタンプラリー」や、ネクジェネへの盛星からの出展等で連携

ポイント③

若者伴走支援の強化

- ・ 若者アイデア補助金を活用する若者団体の活動をカフェマスターが伴走支援し、将来的な活動の自立化等をサポート

【事例①】岩大クラフトビール部による完全県産ビール開発プロジェクト



ポイント④

成果の共有・見える化

- ・ 連携拠点や市町村を通じて、各地域の若者の活動状況等を把握し、成果等を見える化し、活動をステップアップ

【事例②】カフェマスターの支援で、クラウドファンディングにより空き店舗にカフェをオープン



若者と大人世代がシビックプライドを高め合う共助型地域づくりを全県で展開